



新鋭大型エアバス A350-900

会員：山田恒一郎／記

アジア向け航空路線の拡充とサービス向上に拍車をかける FINNAIR（フィンランド航空）



FINNAIR のプレス・コンファレンス（於：ヘルシンキ本社）

アジアと欧州を最短最速で結ぶ！をチャッチフレーズに、FINNAIR（フィンランド航空）が、さらにアジア路線の拡充に力を入れ出した。FINNAIR は、ヘルシンキ空港を拠点に世界の 70 都市に乗り入れ、年間 1000 万人以上の乗客（2015 年）を運ぶ成長航空会社。

この春（4 月 4 日）、FINNAIR が乗り入れているアジア、欧州、北米の各国からジャーナリスト 70 名余りを集め、ヘルシンキ本社でプレス・コンファレンスを開いた。

席上发表された FINNAIR の新営業方針は、1) 新鋭大型エアバス A350-900（ビジネスクラスを含む座席数 297 席）の導入と新規路線の開設、2) 機内サービスの一層の充実、3)

ストップオーバー（フィンランドでの短期滞在旅行）の開始。

1) の「エアバス 350-900 の導入」は、すでに中国路線で 4 機就航。今年中にあと 3 機が追加導入される。2023 年までに、さらに 19 機の大型エアバス購入計画があり、順次需要の大きい路線に導入予定。

「新規路線の開設」は、この 4 月から日本では東京、大阪、名古屋に続き、あらたに福岡線が夏季の季節運航を開始。中国では北京、上海など 5 都市に続き、あらたに広州線が季節運航を開始。東南アジアではベトナムのホーチミン・シティー線が季節運航を開始する。欧州内の新規路線は南欧を中心に多数の都市に季節運航が今年開設される。

2) の「機内サービスの充実」は、特にビジネスクラスの機内食の充実で、長距離便のビジネス機内食が 4 月 6 日から、ヘルシンキのスター・シェフが手掛ける新北欧料理のフレッシュでクリエイティブなランチとディナーが支給される。（ヘルシンキ発の全長距離便のビジネスクラス機内食には、ヘルシンキの名門レストランのシェフ、サス・ロッコネン：Sasu Laukkonen 氏の新北欧料理、北京と上海発の両長距離便には、テレビで活躍するスティーブン・リウ：Steven Liu 氏のフュージョンと呼ばれる東洋西洋融合料理がともに今春から登場した）

エコノミークラスには、スター・シェフ監修の前菜やオードブルが有料で支給されている。



大魚の釣れるアイス・フィッシング

3) の「ストップオーバー」の利用促進は、FINNAIR と大手旅行会社がフィンランド経済労働省から財政支援を受けて始められたプロジェクトで、ヘルシンキ乗り換え客に対し、5 時間から最大 5 日までのフィンランド観光が楽しめるよう、便宜が図られる。1 日観光なら森と湖の国フィンランドの首都ヘルシンキの市内観光、1～2 泊観光なら世界遺産の街ラウマや、ヘルシンキの対岸の隣国エストニアの首都タリン（同じく世界遺産）の市内観光、あるいは湖水地方の国立公園内のレモンカアキで伝統的サウナと湖上アクティビティーが楽しめる。長期滞在なら、北極圏内ラップランド地方でオーロラ鑑賞とサンタクロース村を訪ねる旅などのフィンランド観光が季節を問わず、常に奨励される。



トップ・シェフのリウ氏のフュージョン料理（写真はビジネスクラスのランチ）のご披露

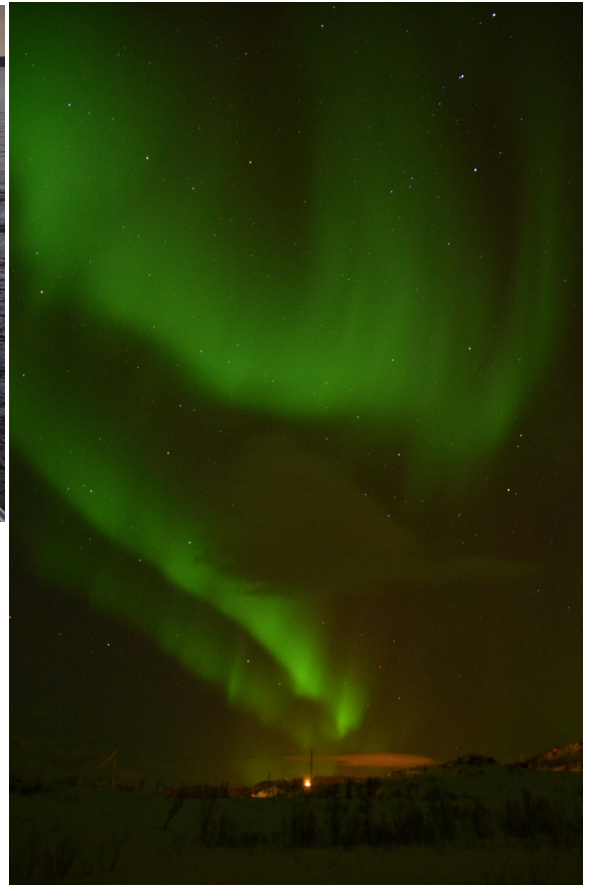
オーストリア航空がこの秋に日本への東京路線から撤退する機運とは逆に、FINNAIR によるアジア方面への路線拡張とサービス向上、並びにフィンランドへの観光奨励には、この春、一段と拍車がかかった。急増する欧州方面向け中国人旅行者への対応とともに、2020年の東京オリンピックを控えて増加傾向にあるアジア向け欧州人旅行者の需要取り込みを十分にカウントした積極的な営業方針が急ピッチで進められる。

*

なお、FINNAIR 主催のストップオーバー候補地ツアーとして、日本人記者団は、ヘルシンキの北 150 キロ、湖水地方のアウトドア観光地、レモンカアキ (Lehmonkarki) を訪れた。冷涼期にはオーロラ鑑賞、スノー・シューイング (雪上歩行)、アイス・フィッシング (氷上釣り)、温暖期には湖上クルージング、カヌー、森林トレッキング、無人島キャンプ、ブルーベリー摘みなどが楽しめる。いずれの季節にも、個人サウナを楽しむほか、古式サウナで伝統的サウナ療法が施療でき、旅の疲れを取る格好の場所であることは確かだ。



湖水地方での湖上クルージング



1～2月に出現率の高い湖水地方のオーロラ



伝統的サウナ療法